

令和六年度

中学校B日程入学試験問題

国語

受験上の注意

- ◎時間 …… 五十分
- ◎解答はすべて解答用紙に記入すること。
- ◎字数制限のある場合、句読点、カギカッコなどの記号も字数に入れるものとする。
- ◎解答は、枠内に濃くはつきりと書くこと。

第一問題 今から放送による問題を行います。

- ① 問題は全部で五問あります。
- ② 本文を読んだあとで、問題を読みます。どちらも一回しか読みませんから、しっかり聞いてください。
- ③ 左の空らんを使って、メモをとってもかまいません。



第二問題 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

【中学生のイルキとハジメは尾道に住んでいる。難病にかかったイルキのいとこのために、イルキの親にしまなみ海道でサイクリングをするとウソをつけて、二人は京都の映画館へ向かう。】

ハジメのあとを、大勢がつづいて降車する。

イルキは車両のそばにつつ立って、遠ざかってゆくハジメの背中を※¹呆然と見送った。
聞いていた予定とちがう。つぎの乗りかえは京都駅のはずだった。

「ハジメツ。ちよ……」

①に返ったイルキの前を、こんどは乗車する人たちが横切る。

そのあいだにもハジメは歩を進めていた。

彼がこの駅で降りるなら、自分も降りなければいけない。きつぷはあちが持っている。乗車する人の列の後方を大まわりして、あとを追う。見れば、ちよようど昇りエスカレーターに乗ったところだ。

「ハジメツ」

どうして待ってくれないのか。

「すいません、すいません」と人の群れをかいくぐり、エスカレーターに足を乗せた。

一方、数メートル先にいるハジメは、左側を歩いてのぼってゆく。

彼とイルキのあいだに、四人歩いている。②それを追いぬくのは無茶だ。右側には、立ち止まってエスカレーターの上昇に身をゆだねる人たちがいる。ここで距離をつめることはできない。ハジメの姿だけは見失うまいと、瞬きもしなかった。

上階の連絡路に到達し、人の波もいくぶん落ち着いた。それでよいにハジメが歩みのスピードを速めるものだから、追いつくには本気で走るしかなかった。

「ハジメって！」

気が立ってきて、つい※₂声を荒らげた。

「なんで勝手に行くん！」

肩をつかんだイルキの手を、ハジメは上半身の動きだけで、あからさまにふりはらった。

「乗りかえるんじゃないら、言つてや。おれ、きつぷ持っていないで」

あのまま置き去りにされたら、と思うとゾツとする。おかげで、ハジメの態度の変化を※₃いぶかるよゆうがない。

「つぎ、どうするん」

「わるい、イル」

ハジメは立ち止まらずに、あやまった。

「ええよ。じゃけど焦ったわ。おれ、ここで降りにやあいけんこと、知らんかったけえ」

「きつぷはおまえにやる。わるいけど、京都にはひとりで行つてくれ」

「はあ？」

なにを言いだすのだろう。

連絡路を、ハジメは端へ向かって進む。③ スマホをにぎりしめた左手の甲に、針金のような筋が立っている。

「さっきのさつきまで最終的にどうしようか迷つて、決断がおそくなった」

とうとう端まで行き着いた。

1・2番ホームへ通じるエスカレーターの前で、ハジメはようやく足を止めた。

④ 壁に設置された大型ディスプレイに映し出されるチカチカした広告が、ハジメの背後からイルキの目を突きさしてくる。

「ほら、これ。やる」

さし出されたきつぷを、イルキはわけもわからず受けとった。

つぎのハジメのせりふで、ますます事態がわからなくなった。

「おれは太子町に行く」

太子町とは、たしか阪南芸術大学がある町の、となりの町だ。

「なんで行くん」

「なんでもや。用事があんねん」

「ほんじゃ、おれも行く」

「ついてきたら映画の上映にまにあわん。イルはつぎの京都方面行きに乗れ。それやったらまにあう。京都駅で嵯峨野線に乗りかえろ。二条駅からミュージアムへの行き方は、駅員かだれかに――」

「もうええって」

目的地までの行き方など聞きたくない。聞けば聞くほど、^⑤言いわけを聞かされているような気分になる。

「なんで太子町に行くんね。教えてくれんにやあ、おれ、このまま尾道に帰る」

「もつたいないやんけ」

「ふたりのミツションじゃけえ」

ふたりで行くから、旅の意味がある。わけもなく、そう信じていた。

それが、ハジメにとってはそうではなかった。

とてつもない裏切りに思えた。だけど、^⑥それに対して腹を立てる気にもならなかった。裏切る理由すら、ハジメは話してくれない。

階下のホームと通じるエスカレーターとエレベーターを利用する人々が、ひっきりなしに往来する。ふたりはそれを避けるべく、壁のディスプレイに肩をつけて向きあった。

「マシロ電子工業」

ようやくハジメが白状する気になったようだ。

「オトンが勤めとった会社や。おれ、そこに行ってみたい」

「なんで」

「見てみたいんや、オトンが働いとった場所を」

「見てどうするん」

「関係ないやろっ」

ハジメの語気が鋭くなった。

「なにが関係ないんね。じぶんだって、関係ないおれのいとこのことに関係してきたじゃんか」

「うっさいのう」

チツと舌打ちしたハジメの左腕を、イルキは強くつかんだ。

「なんやねん、はなせや」

「はなさん。ちゃんとやってくれんにやあ」

「せやから、ワレには関係ないやろがえ！」

ハジメのどなり声に、周囲の何人かがこちらをふり向く。

「瞬ひるんだものの、イルキは手をはなさなかった。」

両手を使って、さらに強くにぎりしめる。なんならこのままスマホを奪取してやるか。イルキもハジメに負けず興奮していた。ハジメが怒りにまかせ大きく前後左右にふりまわす腕を、イルキは気合で完全にホールドした。

「はなせつつつとるやろがえ！ アホンダラ！」

空いていた右手でドンと胸を突いてきた。

その衝撃に弾かれ、イルキはふらついた。

それでも手をはなさなかったものだから、ハジメも体勢をくずし、前につんのめった。転倒をまぬがれようとしたのだろう、すばやく出された右足のひざが、イルキの鼻づらを直撃した。

「ぶぐっ」

反射的に、右手で鼻を押さえてしまった。

ハジメの腕は、イルキの左手からすっぽぬけた。彼はその反動でよろけ、けつきよく転んだ。スマホが勢いよく通路をすべってゆく。

イルキは壁に背をつけ、ずり落ちるように座った。鼻の激痛に耐える。

「オラア、クソガキども」

※⁴強面のおっちゃんが、※⁵どすの利いた声でふたりにしゃべりかけてきた。

「ケンカやったら、よそでやらんかい。あん？」

イルキを自分の影で覆って※⁶凄む。黒いジャケットの着こなし方など、風体からしてヤバそうだ。

「迷惑や。駅員か警察呼ぶぞ」

警察を呼べるということは、このおっちゃん、イルキが思うほど危険な人種ではないようである。

「ごめんなさい。もう、せんけえ」

押さえた鼻の奥に、血の気配を感じた。⑦ いまここで血を見せるのはまずい。本能的にそう判断したイルキは、押さえる指に力をこめた。

おっちゃんが去ってゆく足元で、スマホの画面が白く光った。

のろりと起き上がったハジメは、ひろって画面を確認し、耳に持っていく。

「……はい、もしもし。ああ……はい、あ、いえ……」

イルキは上を向き、指をゆるめて鼻血をのどに流しこんだ。できることはせいぜいそれくらいで、いまハジメに逃げられたら万事休すだ。

しかしハジメは逃げなかった。とぼとぼと頼りない足取りで近づいてきて、イルキの顔を見下ろした。

「おまえのオトンからや」

そういえば、お父ちゃんにハジメの番号を教えてあった。

イルキは左手でスマホを受けとった。右手は鼻血をせき止めつづける。

「もしもし」

『もしもし、お父ちゃんじゃ』

「……うん」

『そっちの状況はどうなんじゃ。いま、どのへんね』

「え……と、どのへんじゃろ。どつかの島よ」

口だけで息をする。しゃべりづらい。極端な鼻声を、お父ちゃんにどう思われているだろう。

『そうね。快晴になってよかったのう。サイクリング日和じゃ』

真横にあるエレベーターにさえぎられ、ここからは外が見えない。いまも本当に晴れているのだろうか。

『チャリンコの調子はどうね』

「……ええよ」

『なんか元気なようじゃけど、まあ、無理しんさんな』

「うん」

うまく声を出せない。鼻をつまんでいるせいだけでもない。顔いっぱい、体中の血が集まってくるようだ。イルキは、頬と目のまわりの筋肉に力を入れた。^⑧こみあげてくるものを、瞳の奥にぐっととどめる。

その横に、ハジメがしゃがみこんだ。体育座りして頭を壁につける。彼の顔が、スマホを持つイルキの手の横にくる。

『トラブルはないんね？』

「だい、じょうぶ。ちょっと疲れただけ」

『ほうね。だいじょうぶじゃなかったら、ちゃんと言いんさいよ。楠木くんもついとるんじゃろう？』

「そうじゃね」

『楠木くんのほうはどうなんね。あの子の声もしんどそうじゃけど』

「うん……しんどいんかもしれん」

きつとしんどいのだ。人に言えない「事情」を抱えて、ともしんどいのだ。

『じゃったら、しっかり助けたらにやあいけんよ』

——それが、ふたりして旅に出る意味なんじゃけえ。

「わかった。おれ、がんばってみる」

『がんばりすぎるんも体に毒じゃけえ、そこだけは覚えとつての』

「うん。お父ちゃん、ありがとうね」

イルキはスマホを耳からはなした。

「ありがとう」

こんどはハジメに言って、スマホを返した。

ハジメは、「勝手におれの番号、教えんなや」と、ふてくされている。

「ごめん。お父ちゃんがもしものときの連絡先がほしい、言うたけえ」

「かまへん。いまがもしものときや」

それを遥か遠方から察知して電話してきたのだとしたら、お父ちゃんは超能力者ということになるけれど。

ハジメはバッグから、透明の※⁷パウチを出した。なかには、白い紙が束になって入っている。

「これで鼻血押さええ」

「助かるわ。あれ、これティッシュじゃないじゃん」

「ポケットティッシュがなかったから、店の紙ナプキンをパクってきた」

こういうハジメのぬかりないところを見ると、すこし安心できた。

(林 けんじろう『星屑すびりつと』より)

- ※1 呆然 … あまりのことにぼんやりしている様子。
- ※2 声を荒らげる … 語気を強める。
- ※3 いぶかる … あやしく思う。
- ※4 強面 … 他人をおどかすようなこわい顔つき。
- ※5 どのの利いた声 … 太くて低い、相手をおどすような声。
- ※6 凄む … 人をおどすような言葉や態度をとる。
- ※7 パウチ … ここでは小袋のこと。

問一 「①に返った」は、ここでは「正氣に戻った」という意味です。①に当てはまる言葉として最も適当なものを

次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、初心 イ、我 ウ、家 エ、駅

問二 ——線②「それを追いぬくのは無茶だ」とありますが、身動きの取れないイルキが、ハジメとはぐれないように気をつけたことはどんなことですか。それがわかる表現を本文中から一文で探し、初めの五字を抜き出して答えなさい。

問三 ——線③「スマホをにぎりしめた左手の甲に、針金のような筋が立っている」とありますが、このときのハジメの心情として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、イルキと一緒に京都へ行くか、自分の行きたい太子町へ一人で行くか、決断できずに迷っている。

イ、イルキを裏切ることになってしまっているので、一緒に太子町へ来てくれるかどうか不安になっている。

ウ、イルキとの約束を破ってしまうことを申し訳なく思いつつも、自分の希望を通す決意をしている。

エ、肩をつかんできたイルキに対して、思ってもいないことを言ってしまった自分に腹が立っている。

問四 ——線④「壁に設置された大型ディスプレイに映し出されるチカチカした広告が、ハジメの背後からイルキの目を突きさしてくる」とありますが、このときのイルキの心情として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、ハジメの自分勝手な行動にふりまわされて、怒りがわいてきている。

イ、自分一人で京都に行かなければならないとわかり、悲しくなっている。

ウ、ハジメの気持ちも知らずにきつく当たったことを、申し訳なく思っている。

エ、ハジメの行動の真意がつかめず、これからどうしていいかわからずにいる。

問五 ——線⑤「言いわけ」とありますが、どのようなことについての言いわけですか。本文中の言葉を使って解答欄に合わせて十五字以内で答えなさい。

問六 ——線⑥「それ」が意味するものは何ですか。解答欄に合わせて十六字で探し、抜き出して答えなさい。

問七 ——線⑦「いまここで血を見せるのはまずい」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、鼻血が出たらハジメとのケンカに負けたことになると思ったから。

イ、強面のおっちゃん頭の頭に血が上って二人ともなぐられると思ったから。

ウ、ハジメとは仲が悪いということが親に知られてしまうと思ったから。

エ、ケガがばれると警察を呼ばれ、事態が大きくなってしまおうと思ったから。

問八 ——線⑧「こみあげてくるものを、瞳の奥にぐつとどめる」とありますが、このときのイルキの心情として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、ハジメとのケンカでどうしていいか分からなくなる中、父親からやさしい言葉をかけられて泣きそうになっている。

イ、ハジメのひざが当たった鼻からの出血が止まらないので、このままでは京都に行けなくなるとあせっている。

ウ、父親との電話でうそをついたことに対して罪悪感が生まれ、すぐに家に帰って父親に謝りたいと思っている。

エ、ひとりで父親の勤めていた会社に行くことができたのに、逃げずにとどまってくれていたハジメに感謝している。

問九 本文の内容に合っているものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、イルキの父はハジメにかけた電話でイルキとハジメのケンカを知って、何とか二人を仲直りさせようとアドバイスをしている。

イ、ハジメはしつこく理由を聞いてくるイルキに腹を立てていたが、イルキのケガとイルキの父からの電話で落ち着きを取り戻している。

ウ、イルキはハジメとケンカをしたことで京都に行けなくなると思っていたが、仲直りをしたのでまた京都に行けるとわかって安心している。

エ、イルキとハジメはケンカしたことではじめてお互いの思いがわかり、今まで言えなかった自分の過去をすべてさらけ出すようにしている。

第三問題 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

初めてアボカドを買ってみた時にまず気づいたのは、バナナと同じように熟すまで待たないといけないことだった。袋買したら一気に一度に熟するので、数日間食卓がアボカド祭りになる覚悟が必要だ。もう一つは、切り方がよく分からないこと。真ん中に巨大でまん丸な種が入っていて、包丁で一度に二分することができない。

①友人にSOSを出して教えてもらった方法は、まず種のところまで包丁を入れて、一周切り込みを入れ、上半分を90度に回して二つに分けること（aジューヨウなのは手首のスナップとのことだった）。コツがいったのは種を取るところだ。種は実の中にぎつちりはまっている上、表面がツルツルしていて、指でつまみ取るのはほぼ不可能。スプーンで取ろうとすると、抜けたときに勢い余って密度の高い種が自分の目をめがけて飛んでくる。そこで、包丁を種に刺し、少し遠心力をかけて刺さった包丁ごとひねることで綺麗に抜ける（ここでも手首のスナップがジューヨウ）。ツルツルした種を、手を切らずに包丁から抜くのもまた難しいのだが。

どうしてこう、地味に危険な果物が普通にスーパーに売っているのだろう。種はなんとかならないのか。そう思い続けてかれこれ10数年。今になって、アボカドのb切ない現状を知った。

アボカドの巨大な種は、②もう現れないパートナーたちを待ち続けている証拠なのだ。

ここで言うパートナーとは、恐竜絶滅後の新生代（約6500万年前〜現代）に生きていた巨大な哺乳類たちだ。具体的には、立つとキリンほどの大きさがある巨大ナマケモノや、車一台分くらい大きい巨大アルマジロや、牙が4つある巨大なゾウが含まれる。彼らはアメリカ大陸で繁栄していた。

そんな彼らに合せて進化していったのがアボカドだ。③アボカドは巨大哺乳類たちに種を遠くまで運んでもらうのに適した進化を遂げていった。種も含めて丸ごと食べてもらい、巨大哺乳類たちが移動先で出したフンの中から出た種が、新天地で育つ仕組みだ。

大量の小さな種を作る果実も多い中、アボカドは1つの大きな種を作る道を進み、種は巨大生物たちが丸呑みできる程度の大さまで進化した。大きい種の中に詰まっているのは、母木が旅する子供に持たせた④非常食。種は大きければ大きいほど栄養を蓄えることができ、フンから出た種が新天地で芽を出す時に有利なのだ。巨大生物たちに種を噛み砕かれてしまつては困る中で、種の中には苦い味のする物質が含まれていて、噛むと良いことがないようにできている。そしてツルツルしている表面は、種を丸ごと飲み込みやすくする。その上アボカドの実の中には下剤作用のある物質が含まれているので、種が消化されてしまう前にお尻から出るような仕組みになっている。

特に熱帯地域の森林では、大人になった大きい木が日の光を遮ってしまうから、若い芽が光合成をして育つのは至難のわざだ。大人の木の隙間から光がもたらえるのは一日のうちたった1〜2時間ほど。その分、種に栄養が蓄えてあれば、光合成から栄養が充分得られなくてもなんとか成長できる確率が高まる。熱帯雨林で生きるアボカドは、種の栄養だけで一年間サバイバルできるのだ。1年間非常食で生き延びる間に、大人の木が倒れて運よく育ちやすい環境を整えば、若木が育つことができ万々歳だ。

アボカドは、りんごやオレンジなど水と糖分の多い他の果物と比べて、脂肪やタンパク質が豊富だ。巨大生物にとってアボカドは良いカロリー源になり、アボカドにとって巨大生物は種を都合よく丸呑みにしてくれて、お互いにハッピーな関係性が続いた。

ところが1万3000年ほど前、巨大な哺乳類たちは急激に地球から姿を消していく。アボカドは、種を丸呑みしてくれる。パトナーが絶滅したのにもかかわらず、ひたすら巨大哺乳類向けの巨大な種の入った果実を作り続けるのだった。熟した果実は

親木の足元に落ち、巨大哺乳類の腹に入るのではなく、カビの栄養源と化して朽ちていく。この間、アボカドがどのようにして生き延びたのかは分かっていない。もしかしたらジャガーなど比較的体の大きい動物が、こつてりした果実に惹かれてときどき食べてみたのかもしれない。あるいはリスやネズミなどの小動物が、種を地面に埋めた後、食べ忘れたのかもしれない。

アボカドがまた日の目を見るようになったのは、人間がアボカドを育てられるようになってからだ。農耕を覚えた人間は、種ばかりで実の部分が少なかった古代のアボカドを、今のような果肉豊富な姿に育て上げた。メキシコ南東部のテワカン溪谷の遺跡からアボカドの種が見つかったため、紀元前8000〜7000年頃には食べられており、紀元前5000年頃にはアメリカ大陸中部の人々によって栽培されたと考えられている。その後、紀元前500年頃にはメキシコや南アメリカで主食の間入りを果たしている。当時マヤ族が使っていた18月周期のカレンダーは、季節ごとに起こることや農作物と関連する出来事によって月の名前が決まっていたが、14月目はアボカドにちなんで名前が付けられていた。

人間がアボカドを愛し続けた結果、世界中で500種類以上ものアボカドの品種が生まれた。近年アボカド人気は世界中で上昇し続けており、2030年には輸出量がパイナップルやマンゴーを超える見込みだ。中でもアメリカでの人気がさらに伸びたことや、中国で輸入量が増えていることが^{※1}拍車をかけている。ヨーロッパ各国でもアボカドは^{※2}スーパーフード扱いされていて、人気が途絶えそうにない。日本でも、鹿児島で「和製アボカド」の栽培が進んでいる。

A アボカドは、ずっと世界的に人気だったわけではない。中南米以外でも親しまれるようになったのは、1995年以降に大々的な^{※3}マーケティング活動が行われるようになってからだ。**B** イギリスでは、最初アボカドは「アボカド梨」と呼ばれており、消費者は「梨の味がしない」と反響はいまひとつだった。**C** レシピを配布したり、店頭でより美しい並べ方を示すようにスーパーへ指導したり、健康面でのメリットを^{※4}訴求したりすることで、徐々にアボカドは人気食材の仲間入りを果たした。日本では、某ファストフード店でアボカドバーガーが売られたこともあるほどだ。

アボカドは比較的高く売れるので、農業従事者にとっても魅力的な作物だ。だが、アボカドを栽培する土地を確保するために違法な森林伐採が加速していることがメキシコで問題となつていゝ。あまりにも儲かるビジネスのため、メキシコのマフィアも関わり始めた。2022年の2月には、メキシコで業務を行つていたアメリカ政府の農業検査官が脅しのメッセージを受け取り、メキシコ産のアボカド輸入を一時停止する事態に陥つた。

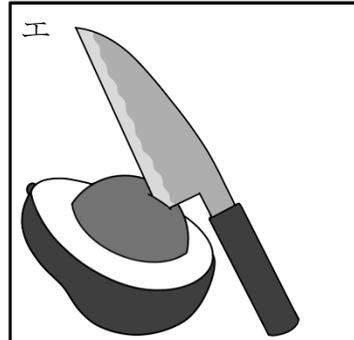
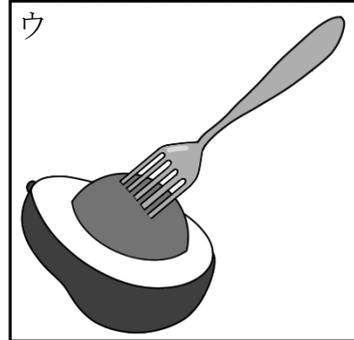
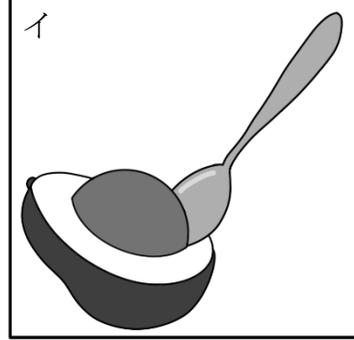
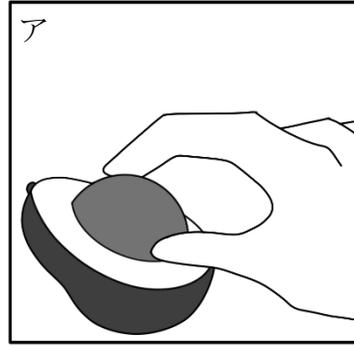
人間のアボカド愛は止まりそうにない。暴力や環境破壊にまみれた不健全な愛にならないことを願うばかりだ。

(五十嵐 杏南『生き物たちよ、なんでそうなつた?!—ふしぎな生存戦略の謎を解く』より)

- ※1 拍車をかけている : 物事の進行をさらに速くしていること。
- ※2 スーパーフード : 栄養が多く含まれる食品。
- ※3 マーケティング : 商品が売れる仕組みをつくること。
- ※4 訴求 : 商品やサービスのよさを消費者にアピールすること。
- ※5 マフィア : イタリアで強い勢力を持つ犯罪組織。

問一 波線部 a 「ジユウヨウ」を漢字に直し、b 「切ない」の読みをひらがなで書きなさい。

問二 —— 線部① 「友人に SOS を出して教えてもらった方法」として最も適当なものを次の図の ア〜エから選び、記号で答えなさい。



問三 —— 線部② 「もう現れないパートナー」とありますが、なぜ「パートナー」は「もう現れない」のでしょうか。「から。」が続くように本文中から四字で探して抜き出さなさい。

問四 —— 線部③ 「アボカドは巨大哺乳類たちに種を遠くまで運んでもらうのに適した進化を遂げていった」とありますが、その説明として最も適当なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア、巨大哺乳類たちに噛み砕かれてしまわないように、丸くて大きな種に進化した。

イ、巨大哺乳類たちの体内で消化されにくいように、下剤作用のある種に進化した。

ウ、巨大哺乳類たちに丸ごと飲み込ませるために、表面がツルツルした種に進化した。

エ、巨大哺乳類たちに食べさせるために、多くの栄養が蓄えられる大きさの種に進化した。

問五 —— 線部④ 「非常食」とありますが、母木が子供に「非常食」を持たせる目的は何ですか。「光合成」という言葉を用いて三十五字以内で説明しなさい。

問六 本文の [A] から [C] に入る言葉として最も適当なものを次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、だが

イ、そこで

ウ、つまり

エ、例えば

オ、なぜなら

問七 アボカドの歴史について、次のようにノートにまとめた。 [I] から [V] に当てはまる言葉を本文中から探して抜き出しなさい。

アボカドの歴史まとめノート	
6万5000年ほど前	アボカドが巨大生物とともに進化する。
1万3000年ほど前	巨大生物が地球上から姿を消していく。
紀元前8000 ～7000年頃	人間がアボカドを食べ始める。
紀元前5000年頃	[I] の人々がアボカドを栽培する。
紀元前500年頃	[II] や [III] でアボカドが主食として食べられる。
1995年以降	中南米以外でもアボカドが食べられるようになる。
2030年	アボカドの輸出量が [IV] や [V] を超える見込み。

問八 筆者の考えとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア、アボカドは日本での人気も高いので、国内の栽培に力を入れていくべきだ。
- イ、アボカドを栽培する土地を確保するために、環境を破壊するべきではない。
- ウ、アボカドをめぐって様々な問題が起きるので、食べるのをひかえるべきだ。
- エ、アボカドは健康面でメリットがあるので、世界中の人々に伝えていくべきだ。

第四問題 「ほうき」を見たことがない人に、それがどんなものか、なるべく多くの角度から説明してください。

令和六年度 B日程入試 放送問題

第一問題 今から放送による問題を行います。

- ・ 全部で五問の質問をします。
 - ・ 本文を読んだあとで、質問を読みます。どちらも一回しか読みませんから、しっかりと聞いてください。
 - ・ 左の空らんなどを使って、メモをとってもかまいません。
- それでは、始めます。

三月に入ると、合格発表の場で喜ぶ声があちこちで聞こえますね。残念ながら涙を流した人もいるかもしれません。

こうしたときに、「喜んでいる人、悲しんでいる人が入り交じり、悲喜こもごもの光景です」と言うのは、本来はまちがっているのです。

「こもごも」は「交交」と書いて「かわるがわる」という意味があります。ですから、「悲喜こもごも」とは「悲しみと喜びをかわるがわる味わう」という意味で、本来は、「人生振り返ると山あり谷あり…悲喜こもごもの人生だったなあ」のように、一人の人間の心境を言う言葉なのです。喜んでいる人、悲しんでいる人が入り交じっている様子を表す言葉ではないのです。

他にもよくまちがって使われる言葉に、「号泣」があります。

例えば、「仲のよい友達と別れ、帰りの電車で声を殺して号泣しました」。

よく使われそうですが、「声を殺して号泣」というのがまちがっているのです。

「号泣」とは「大声をあげて泣き叫ぶこと」。

「号」という漢字には「叫ぶ」という意味があります。他にも、「号令」は「大声で命令や指図をすること」、「怒号」は「怒って大声でなること」です。ですから、「号泣」も声を出して泣いてこそ、「号泣」なのです。

ただ最近では、声を出さずにただ泣いているだけでも「号泣」と言うことが多いようです。大きな表現で目を引こうということでしょうか。

二〇〇八(平成二十)年に発行された辞書には、本来の意味に加え、「(あやまって)大いになみだを流すこと」と載るようになりました。

確かに、「号泣」という響きは強い印象を与え、大げさな表現ですが、使いやすいのかもしれませんがね。

(NHKアナウンス室・編 「NHK 気になることば 走らないのになぜ『ご馳走』より」)

問一 先ほど読んだ「こもごも」という言葉について、あとの質問に答えなさい。

【質問一】「こもごも」を漢字で書くとき、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア. 高学年の「高」 イ. 選手交代の「交」 ウ. 修学旅行の「行」 エ. 平和公園の「公」

【質問二】筆者は、合格発表の場の光景を表現するために「こもごも」を使うのは間違っていると述べています。その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア. 「こもごも」とは、一人の人の気持ちが「かわるがわる」変化する様子を表現する言葉だから。
イ. 「こもごも」とは、心の中にとどめておいた感情がじわじわと出ることを表現する言葉だから。
ウ. 「こもごも」とは、長い時間をかけてゆっくり起こった変化を表現するために使う言葉だから。
エ. 「こもごも」とは、悲しい気持ちを表現するために使うもので、喜びを表現できない言葉だから。

問二 先ほど読んだ「ごうきゅう」という言葉について、あとの質問に答えなさい。

【質問一】「ごうきゅう」を本文の内容を参考にして、漢字に書き改めなさい。

【質問二】筆者は、「仲のよい友達と別れ、帰りの電車で声を殺して号泣しました」という表現をどのような理由から間違いだと述べていましたか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア. 「号」とは「うれしいこと」を表現する言葉だから。
イ. 「号」とは「ひっそりとしていること」を表現する言葉だから。
ウ. 「号」とは「強く怒ること」を表現する言葉だから。
エ. 「号」とは「大声をあげること」を表現する言葉だから。

【質問三】「仲のよい友達と別れ、帰りの電車で声を殺して号泣しました」とありますが、設問二の理由から考えると「号泣しました」の部分はどう変えると良いですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア. くよくよ泣いた イ. わんわん泣いた ウ. しくしく泣いた エ. ぶんぶん泣いた

以上で、放送による問題を終わります。

